

岡山第5工場に最新鋭レーザー

桂スチール
スカラップ加工機も新設へ

桂スチールは最新鋭の設備導入を加速させている。今月には岡山第5工場（岡山県備前市）に水中切断ファイバーレーザー加工機（コマツ産機製）を新設する。切板の自動化と高精度化が狙いで、投資金額は1億円強を予定している。

友延工場には今月末にフレームプレーナー1基を導入する。さらに、導入時期は未定だが、約6億円を投じて、大型の反転スカラップ加工機（シンクス製）を新設する。作業者に負担が大きい大型BHの1次加工の自動化・省力化を図るのが目的。

9月に岡山第5工場に導入予定の水中ファイバーレーザー加工機はコマツ産機がレーザーの水中での形状切断を実現するために開発し、今年1月から販売を開始した最新鋭機。新設後、桂スチールでは新鋭設備についてはBH用の切板、建築部材向けの小板などに活用、厚板加工の生産性と歩留まりの向上につなげていく。

BH向けの切板については従来、NCガス溶断機やプラズマ切断機を主体に、建築用の小物の切板についてはレーザー切断機などで加工を行ってきたが、通常のファイバーレーザーでは切板の製品間にある程度のピッチを設けることが必要で、結果、一定のロスが発生していた。最新鋭機ではこうしたロスを軽減させるとともに、無人化操業により、小物の切板の生産性の向上を図っていく。